

6 徳島発祥のグローバルトータルヘルスケア企業・大塚グループ

●革新的な製品をつくり続け、徳島発のグローバル企業として着実に成長

みなさんは、オロナミンC、ボンカレー、ポカリスエット、カロリーメイト、SOYJOY、オーエスワン（OS-1）、ネイチャーメイド、マッチ、ボディメンテといった商品をよく知っていると思います。このような時代を先取りしたロングセラー商品を生み出している大塚グループの発祥の地が、ここ徳島です。

1921年に大塚武三郎おおつかぶさろうさんがグループのルーツ「大塚製薬工業部（現在の（株）大塚製薬工場）」を鳴門に設立し、塩田から出る苦汁にがりを使った炭酸マグネシウムなどの化学原料メーカーとしてスタートしました。

その後、輸液（点滴注射薬）事業に参入し、ガラス容器に代わる軽くて安全な日本初のプラスチックボトルの開発や、医療現場で必要とされる使いやすさや無菌性を確保し複数の薬剤が入れられる多室型容器の開発など、常に日本の輸液の発展をけん引してきました。

新しい殺菌消毒剤として1953年に発売したオロナイン軟膏（現・オロナインH軟膏）は、現在でも広く愛用されています。この開発には徳島大学が深く関わっており、今で言う産学連携の成果です。

また、それ以上に私たちに身近なのは、最初にあげた飲料、食品です。オロナミンCは、炭酸栄養ドリンク市場を切り開きました。またボンカレーは、日本のレトルト食品の先駆けであり、日清食品のチキンラーメンと並んで戦後の食品における二大発明と言われています。

1980年に誕生したポカリスエットは、日本におけるスポーツドリンク普及の起爆剤となり、今もこの分野の顔としてロングセラーとなっています。カロリーメイトは、バランス栄養食として新たな市場を築き、ダイエット食や非常食としても活用されています。日々の体調管理のサポートを目的として植物由来の乳酸菌B240をベースにつくられたボディメンテも、2017年から発売が始まっています。

このように多くの飲料、食品を生み出してきた大塚グループは、販売戦略や広告戦略が上手な会社としても知られています。特にテレビCMでは古くから有名芸能人などの起用を続けるなど、非常に目を引く広告を次々と世に送り出してきました。現在は、米津玄師さん、所ジョージさん、森七菜さんなどを起用したCMが有名です。またポカリス

エットのCMは若手女優の登竜門と言われており、森高千里さん、宮沢りえさん、綾瀬はるかさんなども出演者の一人でした。

今のポカリスエットのCMは、多くの高校生が懸命にダンスするシーンを映し出すなど、若さとさわやかさを前面にアピールした内容となっています。「新しい」というイメージが強く感じられ、長寿製品であることを忘れてしまうほどです。

医薬品でも、多くの製品の開発を続けてきました。世界中で販売を伸ばした抗精神病薬「エビリファイ」、抗血小板剤「プレタール」、胃炎・胃潰瘍治療剤「ムコスタ」などは、今も広く使われています。現在は、抗精神病薬「エビリファイメンテナ」、「レキサルテイ」、心不全などによる浮腫を改善する利尿剤・腎臓の難病治療薬「サムスカ／ジンアーク」、抗悪性腫瘍剤「ロンサーフ」のグローバル4製品を主力としています。また、新薬の開発も着実に続けており、将来の業績に大きく貢献することが期待されています。

このように大塚グループは、疾病の診断から治療までを担う「医療関連事業」、日々の健康の維持・増進をサポートする「ニュートラシューティカルズ事業 (Nutrition (栄養) + Pharmaceuticals (医薬品) の造語)」の二本柱でトータルヘルスケアを進めています。

大塚グループは、創業者の大塚武三郎さんの後を受けた大塚正士さん、大塚明彦さんが事業を拡大し、国内でグループ企業や生産・販売拠点を増やしてきました。また、

1973年に初の海外生産拠点をタイに設けて以来積極的に海外進出を行い、今では海外向けの売上げが国内売上げとほぼ同じになっています。

大塚グループは、グループを束ねる大塚ホールディングス(株)と、大塚製薬(株)、(株)大塚製薬工場、大鵬薬品工業(株)、大塚倉庫(株)、大塚化学(株)、大塚食品(株)、大塚メディカルデバイス(株)、アース製薬(株)などの子会社・関連会社、合わせて国内外の195社で構成され、医薬品から食品、飲料、化学製品や美術陶板まで、さまざまな事業を展開しています。

大塚グループの売り上げは約1兆4000億円(2019年12月期)であり、徳島発の日本を代表するグローバル企業となっています。そして、徳島には(株)大塚製薬工場の本社、大塚製薬(株)の徳島本部があるほか、広範囲な地域(徳島市、鳴門市、美馬市、松茂町、北島町、板野町、鷺敷町など)に大塚グループの工場、研究所などがあり、その従業員数は5000人を超え、徳島の経済をけん引しています。

(株)大塚製薬工場は、1921年に創立された大塚グループ発祥の企業であり、本社は鳴門市にあります。企業名に「工場」とついでいますが、グループの工場としての位置づけではなく、輸液事業を柱とし臨床栄養製品を中心とした、医薬品、医療機器、機能性食品などの研究・開発・生産・販売を行っています。同社の輸液は国内業界トップシエ

アを占め、アジアを中心とした海外にも積極的に展開しており、インドネシア、エジプトなどでも高いシェアを誇っています。

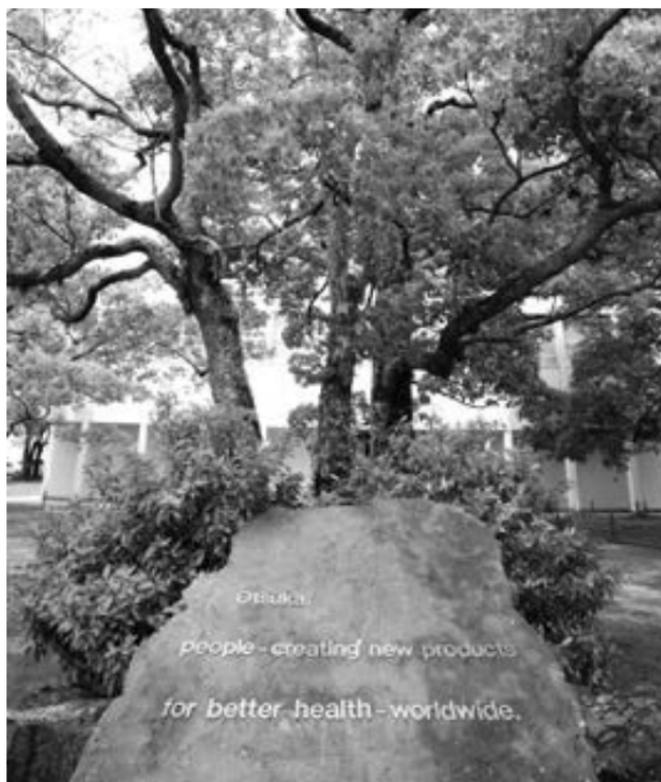
また輸液以外にも脱水状態の時に飲む経口補水飲料や流動食などさまざまなニーズに対応した製品を開発するとともに、輸液の製造で培った独自技術を生かし他の製薬会社からの受託事業も展開しています。

徳島市川内町にある大塚製薬

徳島工場の石碑には、「Orsuka-
people creating new products for
better health worldwide (世界の

人々の健康に貢献する、革新的な製品を創造する)」という大塚グループの企業理念が刻まれています。この言葉には、「自らの手で独創的なものを創る」、

「健康に役立つ」、 「世界の
人々に貢献する」という思いが



企業理念の刻まれた石碑 ©大塚製薬(株)

込められています。そして、この理念を実現するために求められるのが、先入観を打ち破り発想を転換するという考え方です。ロングセラーとなる独創的な商品を生み続けるための秘訣といえるでしょう。

●大塚がこだわり続ける「徳島回帰」

大塚グループは、グローバルな企業になりましたが、「徳島回帰」つまり「発祥の地、徳島を大切にして地元発展とともに成長していきたい」と考えています。2020年9月には、大塚製薬の国内6番目の医療用医薬品工場として「徳島美



大塚国際美術館 ©大塚製薬(株)

馬工場」の操業を開始しました。

これまで述べてきたさまざまな事業活動を通じて地域の雇用や経済に大きく貢献しているのはもちろんですが、それにとどまらず文化、スポーツなどを通じた地域の活性化にも幅広く関わっています。こうした考え方を象徴するのが大塚国際美術館です。

大塚国際美術館は、瀬戸内海国立公園内の鳴門公園の一角に位置し、大塚グループの創立75周年事業として1998年に開設されました。延床面積2万9412㎡におよぶ常設展示スペースを有し、世界で類を見ない陶板名画を展示する、私立では国内最大の美術館であり、鳴門公園の景観を損なわないよう建物のほとんどは山の中に造られています。

入り口から長いエスカレーターを昇ると、ミケランジェロの「天地創造」「最後の審判」などが描かれたバチカン宮殿内システイーナ礼拝堂の天井画・壁画が原寸大で再現されているのに、まずびつくりします。

そして、レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」やフェルメールの「真珠の耳飾りの少女」、ピカソの「ゲルニカ」、ゴッホの「ひまわり」など、西洋名画のオンパレード。

宗教画から現代絵画まで1000点以上のオリジナル作品の原寸大の陶板名画を所蔵しており、世界26か国、190以上の美術館などの作品が一堂に展示されています。レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐^{ばんさん}」の修復前と修復後を左右に並べて見学できるのも、

大塚国際美術館ならではの楽しみです。

鑑賞ルートは4kmにもなり、2〜3時間ではとても回りきれません。

またさまざまな企画も行われており、2009年に始まった新作歌舞伎の公演の開催は10回を数えています。そのほかコンサート、アートミステリーツアーなども開催されるなど、新たな文化の発信拠点として注目されています。2018年大みそかの紅白歌合戦では、徳島出身であり日本を代表するシンガーソングライター米津玄師さんがシステイーナ・ホールから出演し、全国に大きな衝撃を与えました。

陶板名画は2000年以上原色を保ち続けると言われており、今後も国内外からの集客が期待される貴重な観光資源となっています。東京や大阪のような集客の見込める場所ではなく、グループ発祥の地・鳴門に置いたところに大塚グループの徳島への思いが感じられます。

この陶板をつくっているのは、滋賀県にあるグループの大塚オーミ陶業（株）で、鳴門海峡の白砂を使ってタイルの製造を始めたのがこの陶板事業のきっかけです。

大塚国際美術館の魅力は、①世界の名画を集めるといふ奇想天外な発想力、②名画を陶板画で再現した高い技術力、③スケールの大きさにあるといえるでしょう。

また大塚グループはスポーツへの取り組みにも力を入れており、陸上競技部には全国

トップレベルのアスリートも所属しています。大塚製薬サッカー部を前身とする「リリーグ徳島ヴォルティス」には、現在もメインスポンサーとして支援を続けています。

「公園工場」とも呼ばれる広々とした芝生のある徳島ワジキ工場の敷地内野外ステージでは、音楽イベント「エキサイティングサマー・イン・ワジキ」の開催が1990年から続いています。

以上のように、大塚グループはその機能・文化を地元徳島に集中することで、提携先などからグループ全体を一目で理解してもらえらるような体制を取っています。また新たな提携を進める場合にも、徳島に招待することもするなど、大塚グループおよび徳島についての理解を深めてもらっているそうです。こうした取り組みを知ると、徳島県民としても地域への誇りが一段と湧いてきます。